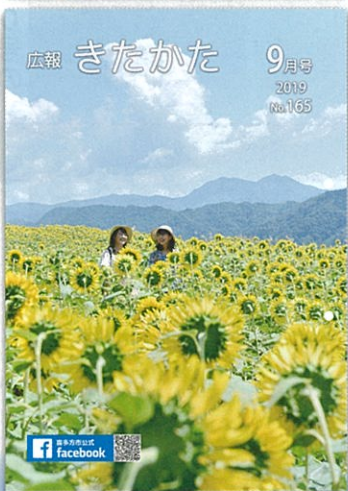
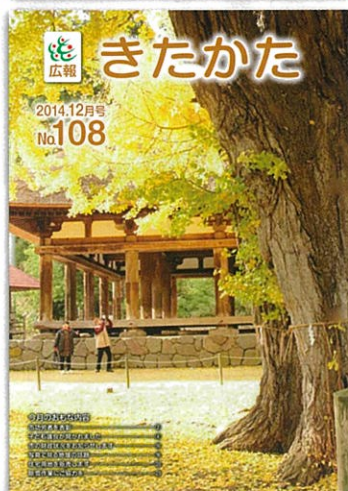
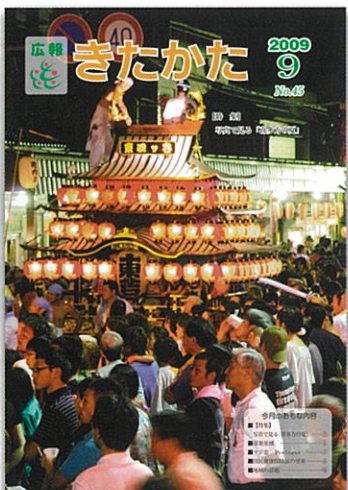


広
報

きたかた

Kitakata Public Relations

8月号
2022
No.200



おかげさまで 200号!

目次 - contents -

- 200号記念 広報ができるまで … ②
- SDGsインタビュー … ⑥
- 健康だより … ⑩
- 拓げ喜多方！まなびのトビラ … ⑫
- きたかたフォトニュース … ⑭
- 情報ステーション … ⑯



古くて新しい会社・グループへ



荒川産業株式会社

あらかわ けんきち

代表取締役社長 荒川 健吉さん



▲取り組んでいる主な目標(ゴール)

資源ごみを活かした 材料の加工・販売

資源のリサイクルや廃棄物の処理に取り組んでいます。喜多方市の資源ごみは月間約60トが排出されていますが、これを自社で回収し、各事業者の製品の元となる材料の加工・販売をしています。

当社は、「地域資源発掘」と「地域課題解決」の2つをテーマとして掲げ、明るい家庭が増え、地域社会が豊かになり、「幸せの実現」を目指していくことを目標に日々取り組んでいます。

資源のリサイクルは バトンリレー

さまざまな資源ごみのリサイクルや廃棄物の処理という点では、SDGsの目標12(つくる責任)つかう責任)につながっていると思います。資源のリサイクルは、ある意味バトンリレーのようなものであり、資源を出してくれる人、加工する人、さらには利用する人といったス

テークホルダー(利害関係者)とのつながりの中で成り立っています。

こうした物と人、地域との取り組みを循環させていくことで、目標12だけでなく、目標11(住み続けられるまちづくり)などの達成にもつながっていくと考えています。



▲回収されたペットボトル

SDGsは仲間づく りから

SDGsは、一人一人が自分ごととして考えていくことが必要だと思っています。それは、ごみの問題に限らず、貧困や飢餓の問題などSDGsに掲げる17の目標全てに関して言えます。また、どのような取り組み

でも一人で出来ることは限られています。私たちの取り組みは地域の方とのつながりから成り立っているため、「仲間づくり」が今後のSDGsを普及させていくために重要になってくると思います。

市の総合計画では「廃棄物減量化の促進」や「環境負荷の低減」を施策として掲げていると思いますが、こうした施策も地域全体で手を取り合うことで推進できると考えます。一人一人が「仲間」の意識を持ってさまざまな問題を解決していければと思います。



▲鋼材を機械で加工する様子

☎ 企画調整課 戦略室
(24) 5207